

**主 題：救い主は来られた**

**聖書箇所：ヨハネの福音書 20章31節**

ヨハネの福音書20章31節のみことばをご一緒に学んでいきます。

「しかし、これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるため、また、あなたがたが信じて、イエスの御名によっていのちを得るためである。」

まさに、ヨハネの福音書の結論というものをヨハネはここで記した訳です。ヨハネが言わんとすることは「このイエス・キリストは真の神であり、約束の救い主である。救世主である。」ということです。そのことをヨハネはこの福音書の初めから記して来ました。イエスが真の神であること、約束の救世主、救い主であることを話して来ました。ですから、1章を見るとそのことが記されています。

**☆約束の救世主イエスとは？ ヨハネ1章から**

・ **被造物ではないお方 1：1**

まず、1節にはこのイエスは被造物ではないということが記されています。初めから存在しておられたと言います。被造物であったら始まりがあるのです。造られたときがあるのです。しかし、この方には始まりがない、つまり、造られたのではないということです。永遠から永遠に存在しておられる神だとヨハネは言うのです。

・ **創造主なる方 1：3**

二つ目に3節を見ると、この方はすべてのものをお造りになった創造主だと教えています。すべてのものはこの方によって造られた。この地球上の、宇宙の、世界のすべてのものはこの方によって造られた。この方は創造主なる神だということです。

・ **いのちの源であるお方 1：4**

また、4節を見ると、この方はいのちの源であると言います。私たちのこのいのち、肉体のいのちも霊的ないのち、永遠のいのちもこの方が与えることができるということです。

・ **だれでも信じる者を神の子どもとすることのできるお方 1：12**

信じるすべての人を神の子とすることのできるお方である、それがこのイエス・キリストであると、ヨハネは初めから教えるのです。

・ **人となられた神 1：14**

このイエス・キリストこそ人となられた神であると言います。

ですから、このヨハネの福音書の初めから、ヨハネは「イエスは神である。イエス・キリストこそが約束の救世主である」と語って来ました。そして、20：31の結論に至るのです。それまでの間、1章の初めからこの20章の終わりまで、ヨハネは福音書を通してそのことの証拠を挙げています。確かに、イエス・キリストが真の神であり、唯一真の救い主であることを、彼は様々な方法、様々なことをもって証明しようとしています。今から、ヨハネが挙げたイエス・キリストが真の神であり、約束の救世主であるとする四つの証明を見て行きます。

**A. イエス・キリストが真の神であり、約束の救世主である証拠**

**1. イエスの奇跡のみわざ**

福音書には、イエス・キリストが為された奇跡は35回記されていますが、ヨハネの福音書にはその中の七つをヨハネは記しています。イエス・キリストが復活した後、漁に行った弟子たちに網を下ろしてみなさいと言われ、大漁であったという奇跡がありますが、それを除いた七つの大きな奇跡がヨハネの福音書の中に記されています。

**1) 水をぶどう酒に変えた 2：1-11**

ガリラヤ湖にほど近いカナの町において、婚礼の場であって、水をぶどう酒に変えるという奇跡を行なわれました。

**2) 王室の役人の息子の病気を癒す 4：46-54**

二つ目は、カペナウムにあって、王室の役人の息子の病気を癒すというわざをなさいました。

**3) ベテスダの池で38年間病氣の人を癒す 5：1-15**

三つ目に、38年間も病を患っていた人をベテスダの池で癒すという奇跡のみわざをなさいました。

**4) 五千人の給食 6：1-14**

男だけで5千人の人たちに、五つのパンと2匹の魚でもって食事を与えたという奇跡のみわざが記されています。

## 5) ガリラヤ湖の上の歩く 6 : 15 - 21

同じ6章には、イエス・キリストはあのガリラヤ湖を歩いたという奇跡があります。

## 6) 盲人として生まれた人の癒し 9 : 1 - 7

そして、9章に移ると、そこには生まれつき盲目であった人の目をいやされという奇跡のみわざが記されています。

## 7) ラザロを死からよみがえらせた 11 : 1 - 44

七番目は、11章に記されています。死んで4日経っていたラザロをその死からよみがえらせました。ですから、ヨハネはイエス・キリストはこのような奇跡を行なわれたと言うのです。その奇跡を通して、イエスご自身が言われていたように、真の神であり、約束の救世主だということを明らかにしたのです。ヨハネはそのことをこの福音書の中に記しています。奇跡をもって、確かに、イエスは真の神であり、約束の救世主であると。

## 2. 預言の成就

二つ目の証拠は預言の成就です。預言が約束通り成就したということです。

### 1) 神が人として生まれる

**預言**：神が人となってこの世にお生まれになったということです。実は、このことは旧約聖書の中に預言されていました。後に誕生する救世主は人となってお生まれになる神だということを預言していました。イザヤ書7 : 14「それゆえ、主みずから、あなたがたに一つのしるしを与えられる。見よ。処女がみごもっている。そして男の子を産み、その名を『インマヌエル』と名づける。」と、このような預言が為されました。

**成就**：確かに、マタイの福音書1章を見ると、お生まれになったこのイエス・キリストは「インマヌエル」であると記されています。1 : 23「見よ、処女がみごもっている。そして男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」（訳すと、神は私たちとともにおられる、という意味である。）、「インマヌエル」とは「神が私たちとともにおられる」、創造主なる真の神が人間となって私たちの間に住んでくださる、人となられたということです。そして、私たちが最初に見たように、1章でそのことをヨハネは教えています（1 : 1 - 14）。神が人となって私たちの間に住まわれるのです。ですから、マタイのように「インマヌエル」ということばを使っていなくても、ヨハネはこの福音書の中で、このイエス・キリストこそ、あのイザヤが預言していた「人としてこの世にお見えになる救世主」なのだと、そのことを教えるのです。預言が成就したと言うのです。

### 2) 救世主の死

救世主の死についての預言も数々なされています。この救世主は人となってこの世に来るというだけではありません。救世主は死ぬという預言です。

#### (1) **預言**：着物はくじで分けられる

詩篇22 : 18「彼らは私の着物を互いに分け合い、私の一つの着物を、くじ引きにします。」と、このような預言がされていたのです。

**成就**：ヨハネの福音書19章を見ると、イエス・キリストが十字架に架けられていく様子が記されていますが、19 : 24でヨハネはこのように教えています。「そこで彼らは互いに言った。「それは裂かないで、だれの物になるか、くじを引こう。」それは、「彼らはわたしの着物を分け合い、わたしの下着のためにくじを引いた。」という聖書が成就するためであった。」、彼らが旧約の預言を知っていて、ここでその預言が成就するためにこんな話をしたのではありません。彼らはその成り行きにあってこのような選択をしていったのです。でも、このようにイエスの着物をだれがもらえるようにするのか、そのようなくじを引こうというのは、実際に彼らを選択したことです。実は、それは旧約聖書に預言されていたことだとヨハネは言うのです。そして、この預言はイエス・キリストによって成就したと、ヨハネはそのことを告げるのです。

#### (2) **預言**：渴いたときに酢を飲ませる

詩篇69 : 21には「彼らは私の食物の代わりに、苦味を与え、私が渴いたときには酢を飲ませました。」という預言があります。

**成就**：そして、ヨハネ19 : 28 - 30をご覧ください。「この後、イエスは、すべてのことが完了したのを知って、聖書が成就するために、「わたしは渴く。」と言われた。そこには酸いぶどう酒のいっぱいはいった入れ物が置いてあった。そこで彼らは、酸いぶどう酒を含んだ海綿をヒソブの枝につけて、それをイエスの口もとに差し出した。イエスは、酸いぶどう酒を受けられると、「完了した。」と言われた。そして、頭を垂れて、霊をお渡しになった。」とあります。ここでもヨハネが言いたかったことは、旧約聖書に預言

されていた救世主に関する預言、「救世主は必ず酢を飲まされる。死に直面しているときに酢を飲まされる。」という預言が、まさにこのイエス・キリストによって成就したということです。イエス・キリストは確かに酢を口に含まれるのです。

### (3) 預言：骨はひとつも砕かれることはない

つまり、救世主の骨は一本たりとも折られることはないということです。詩篇34：20にそのような預言があります。「主は、彼の骨をことごとく守り、その一つさえ、砕かれることはない。」

**成就**：ヨハネ19：31-36「その日は備え日であったため、ユダヤ人たちは安息日に（その安息日は大いなる日であったので）、死体を十字架の上に残しておかないように、すねを折ってそれを取りのける処置をピラトに願った。：32 それで、兵士たちが来て、イエスといっしょに十字架につけられた第一の者と、もうひとりの者とのすねを折った。：33 しかし、イエスのところに来ると、イエスがすでに死んでおられるのを認めたので、そのすねを折らなかつた。：34 しかし、兵士のうちのひとりがイエスのわき腹を槍で突き刺した。すると、ただちに血と水が出て来た。：35 それを目撃した者があかしをしているのである。そのあかしは真実である。その人が、あなたがたにも信じさせるために、真実を話すということをよく知っているのである。：36 この事が起こったのは、「彼の骨は一つも砕かれない。」という聖書のことばが成就するためであった。」、大切な日がやって来るので、その日に十字架に磔にした状態で置いておけないからすねを折りなさいということです。なぜなら、すねを折ることによって死が早まるからです。ですから、十字架に架かってまだ息を引き取っていない人たちにいて、「すねを折って早く彼らが息を引き取るように。」という命令が下るのです。非常に残酷な処刑です。イエスの両側に架かっていた犯罪人のすねは折られました。彼らが早く死ぬためです。「しかし、イエスのところに来ると、イエスがすでに死んでおられるのを認めたので、そのすねを折らなかつた。」とあります。だからヨハネは、預言されていた通りにこの救世主の骨は一つさえもおられることはないと言うのです。

### (4) 預言：槍で突き刺される

ゼカリヤ12：10「わたしは、ダビデの家とエルサレムの住民の上に、恵みと哀願の霊を注ぐ。彼らは、自分たちが突き刺した者、わたしを仰ぎ見、ひとり子を失って嘆くように、その者のために嘆き、初子を失って激しく泣くように、その者のために激しく泣く。」

**成就**：19：34に「しかし、兵士のうちのひとりがイエスのわき腹を槍で突き刺した。すると、ただちに血と水が出て来た。」とあり、本当に死んでいるのかを確かめるために、兵士のひとりが槍でイエスのわき腹を刺したのです。それに関して37節では「また聖書の別のところには、「彼らは自分たちが突き刺した方を見る。」と言われているからである。」

今、こうして見て来たように、確かに、旧約聖書の時代にあつて、旧約聖書のみことばは来られる救世主に関してこのような預言がされていたのです。もちろん、これはごく一部です。しかし、その預言が、こうして見事にイエス・キリストによって成就したということを、ヨハネはここに記したのです。ですから、このことによつても、ヨハネは「このイエス・キリストこそあの約束されていた救世主である。真の神である。」ということを立てしようとしているのです。

## 3. 主イエスの復活

三つ目の証拠は、主イエス・キリストの復活という出来事です。

### (1) マグダラのマリヤ 20：11-18

イエスが肉体をもってよみがえり、最初に、マグダラのマリヤに出会ったことが記されています。

### (2) トマスを除いた弟子たち 20：19-25

その後、トマスを除いた弟子たちのところにイエスが現われた様子が記されています。

### (3) トマスと弟子たち 20：26-29

今度はトマスが弟子たちといふ所にイエスが肉体をもって彼らの前に現われた様子が記されています。そして、疑い深かったトマス、弟子たちが「私たちはよみがえったイエスさまを見た。十字架で亡くなったイエスさまは、約束通り死後三日目によみがえって来られた。我々はそのイエスさまにお会いした。」と言っても、彼はそのことを信じることはできませんでした。そして、この20章の後半には、主イエス・キリストはトマスの前に現われて「それからトマスに言われた。「あなたの指をここにつけて、わたしの手を見なさい。手を伸ばして、わたしのわきに差し入れなさい。信じない者にならないで、信じる者になりなさい。」（12：27）と言われます。トマスはここで、十字架に釘づけにされて殺されたイエスが、肉体をもってよみがえったと、その確信を得るのです。彼は言います。28節「私の主。私の神。」と。信じていなかったわけではありません。しかし、疑い深かった彼はここで確信を持つのです。確かに、イエス・キリストはよみがえられたと。

ですから、このイエス・キリストの復活という出来事をもって、ヨハネは、このイエスこそが真の神

であり、救世主である、神が約束されたように、彼は十字架で死に、そして、三日後によみがえって来たと言うのです。確かに、旧約を見ても新約を見ても、死からよみがえった人は他にもいます。先に話したラザロもそうでした。でも、イエス・キリストの復活と違うところがあります。ラザロもまたそれ以外の人たちは復活しても彼らはまた死にました。しかし、イエス・キリストはその死からよみがえって来ることによって、死を経験することなく今も生き続けておられます。この復活によってイエスが真の神であること、約束の救世主であることが明らかにされたのです。そして、ヨハネはそのことをここに記しているのです。

#### 4. 信じた人々の生まれ変わり

もう一つ、四つ目の証拠はイエスを信じる者たちが生まれ変わるということです。

1) **ニコデモ**：彼はユダヤ教の教師、ユダヤ人の指導者でした。彼はイエスの許にやって来てイエスと話しをするのです。ヨハネ3章に記されていますが、「どうすれば、救いに与ることができるのですか？」と尋ねるニコデモに対して、主イエス・キリストは「人は新しく生まれなければ神の国を見ることはない。新しく生まれ変わらなさい。」と言います。ニコデモは意味がよく分かりませんでした。何のことを言っているのか？と。しかし、ヨハネの福音書19章を見ると、イエス・キリストが十字架で亡くなった後、ヨセフがイエスのからだを引き取りたいと許可を願いました。そして、イエスのからだを十字架から取り下ろした様子が記されています。19：38「そのあとで、イエスの弟子ではあったがユダヤ人を恐れてそのことを隠していたアリマタヤのヨセフが、イエスのからだを取りかたづけたいとピラトに願った。それで、ピラトは許可を与えた。そこで彼は来て、イエスのからだを取り降ろした。」、そして、イエス・キリストの死体に没薬を塗るために人々がやって来るのですが、その中に39節「前に、夜イエスのところに来たニコデモも、没薬とアロエを混ぜ合わせたものをおよそ三十キログラムばかり持って、やって来た。」と記されています。3章に出ていたニコデモがここに記されています。彼は救いに与ったのです。神はニコデモを生まれ変わらせてくださったのです。

2) **サマリヤの女**：もう一人の人物を挙げるなら、4章に記されている「サマリヤの女」です。彼女にはいろいろな罪があって、人々がいる時間に出て来ようとはしませんでした。しかし、イエス・キリストによって生まれ変わった彼女は、人々から隠れて生きて来たのが、今度は人々の前に出てイエス・キリストこそが真の救い主であることを証する人物に変えられたのです。

恐らく、皆さんもその証人です。主イエス・キリストはいったいどこにおられるのですか？見たことがない。そうです。私たちは見たことがありません。しかし、イエス・キリストは私たちのうちに住んでおられるということを知っています。なぜなら、私たちが本当に苦しいときに、本当に悲しいときに、辛いときに、私たちに内住しておられる神が私たちに慰めをくださる、私たちに励ましをくださる。その方が私たちに与えてくださる喜びは、私たちがこの世のものによって経験することのないものです。皆さん、サマリヤの女もニコデモも、そして、このヨハネ自身も、彼らは自らの生き方をもって証したのです。「このイエス・キリストこそが真の神だ。このイエス・キリストは真の救い主だ。そして、私は救いに与った。私は罪から解放された。私は永遠の地獄ではなく天国が与えられた。私はこの神とともに日々歩むことができる。」と。どうして分かるのですか？神が私のうちに働いてくださっているから、神が私を変えてくださっているから、明らかに、神は私を生まれ変わらせてくださったからです。

信仰者の皆さん、私たちはこの神のすばらしい救いを人々に語るだけではない、この救いを生きるのです。その役目が私たちに与えられているのです。なぜなら、私たちがそのように生きていなければ、どんなにすばらしことを語っても人々はそれが偽りであると見抜きます。主イエス・キリストの約束は私たちが新しく生まれ変わることです。永遠の希望をもって今日生きる者へ私たちは変えられるのです。私たちは死んでも生きるという確信をもって生きるのです。そして、私たちは確かにイエス・キリストによって新しく生まれ変わったのです。私には新しい希望が与えられました。そのことを一人ひとりが確信をもって証することができるはず。なぜなら、神はあなたをそのような人に生まれ変わらせてくださったからです。それが救いだからです。

ヨハネはこのヨハネの福音書を通して、イエス・キリストこそがそのようなお方である、真の神であり救世主である、私たちが生まれ変わらせることができるお方なのだとすることを明らかにします。それが彼のメッセージなのです。それを彼は語り続けて来たのです。

#### B. ヨハネの願い

そして、最後の20章の終わりに、彼の願いとも言えるメッセージが記されています。というのは、こんなにすばらしいイエスの奇跡を見ても、このように為されて来たイエス・キリストのその預言の成就のみわざを見ても、人々の生き方が変わっているその姿を見ても、悲しいことに、人間は二つのグループに分かれます。ある人たちはそれを心から受け入れます。でも、ある人たちは受け入れようとせず、

却って、心を頑なにします。ヨハネ 12 : 37に「イエスが彼らの目の前でこのように多くのしるしを行なわれたのに、彼らはイエスを信じなかった。」とある通りです。どんなに多くの奇跡を行なっても、どんなにそれが不可能と思えるわざであったとしても、信じたくない人間は信じないのです。自分の思い通りに生きて行こうと願っている人間は、たとえ、どのような奇跡を見ても信じません。これが我々の問題です。神の前に謙虚に従順になろうとするのではなく、我々の思い通りに生きていこうとするのです。主イエス・キリストのことを直接聞き、そのメッセージを直接聞き、イエス・キリストを目の当たりにし、その奇跡のみわざを見ても、人々の多くはこの方を受け入れることはなかったのです。悲劇がたくさん記されています。そして、その悲劇は今も続いています。

でも、その中であってヨハネは、信じようと思えば信じたいと私は人々に語らなければいけないメッセージがあると言うのです。私は人々の前で声を大にして伝えなければならないメッセージがあると言うのです。それは「このイエス・キリストこそが真の神であり、この方は約束の救世主、救い主である」というメッセージです。彼が望んでいたことは、時代がどう移り変わろうと、場所がどこであろうとも、この福音書を読むすべての読者がこの救いを頂くことであり、この救いに与ることです。一人でも多くの人たちが、このイエス・キリストによつての救いを頂いてもらいたい、それがヨハネの願いでした。

### 1. 救いをもたらす信仰 : 「信じる」ということ

ですから、このヨハネの福音書を見ていきますと、「信じる」ということばがこの福音書のカギであることが分かります。この福音書の中に98回も使われていることばです。ヨハネが言いたかったことは、いろいろな行ないによって救いに与るのではない、宗教心に熱くなって立派なことをするから救いに与るのではない、何か特別なことをするから救われるのではない、パウロが言ったことと同じです。

「救いは信仰によってのみ与えられる。信じる信仰によって救われる。」のです。エペソ 2 : 8に「あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。」とある通りです。そこで、「信じることによって救われる。信仰によって救われる。」と知っていたヨハネは「信じる」ことについての特徴を現わしています。

#### 1) 「信じる」ことの特徴

「信じる」ということばは20 : 31に2回出ています。「しかし、これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるため、また、あなたがたが信じて、イエスの御名によっていのちを得るためである。」。一つは「イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるため、」、もう一つは「あなたがたが信じて、」です。最初の「信じるため、」は、この時制を見るとこれは過去のことです。なぜなら、この手紙を読んだ殆どの人たちはもうすでに信仰に与っていたからです。二つ目の「信じて」は敢えて現在形を使っています。つまり、ヨハネはこうしてこの本当の信仰、本当の救い、罪の赦しを得ることのできるこの救いとは、このようなものだという説明を加えているのです。「継続して信じ続けていく」、それが救いだということです。口で「信じる」と告白する人はたくさんいます。しかし、その信仰は長く続きません。本物ではないのです。神がくださった信仰とは、その人が信仰をもち、神を信じ、信じ続けていくのです。

ですから、ヨハネはここで「あなたがたが信じるため、また、あなたがたが信じて、」と言います。この後また説明しますが、救いのことを言っているのです。救いに与る信仰のその特徴は、その人が信じ、そして、信じ続けていくものであるということです。

#### 2) 「信じる」ことの内容

特徴を話したヨハネは、今度は何を信じるのか、その内容まで言及しています。「イエスが神の子キリストであることを、」、非常に明確です。「イエスがキリストであること」と「イエスが神の御子であること」です。

##### (1) イエスがキリスト、救い主 :

イエスがキリストであるとは、イエスが救い主だということです。あなたをその罪から救ってくださる、あなたを永遠のさばきから救ってくださる救世主だと言うのです。

##### (2) イエスが神の御子 :

これはメシヤ的な称号です。また、三位一体の第二格、イエスは唯一の子である、この方は人となられた神だということです。そのことをヨハネは最初から教えています。主イエス・キリストは創造主なる真の神であり、そして、私たちをその罪から救い出してくださる救世主であると。31節の後半には「あなたがたが信じて、イエスの御名によっていのちを得るためである。」とあり、このイエスによってのみいのちを得ることができる、イエスによってのみ罪の赦しを得ることができる」とヨハネは教えているのです。

**結論** : なぜなら、イエス・キリストが救世主だからです。神が送ってくださった約束の救世主だから、

この方によってのみ私たちは罪の赦しを得るのです。ほかに救いの道があるのなら、わざわざ救世主を送る必要はなかったのです。我々が一生懸命努力をすることによって救い得ることが出来るのなら、救世主など必要ないのです。人間には救われるすべがないから、神が救世主を送ってくださったのです。そして、そのことは彼のみわざを見たときに、彼自身が地上で十字架に架かったそのすべての出来事を見たときに、確かに、それは旧約が預言していた救世主だと、預言の成就をもって、私たちはこの方がだれであるかをはっきりと知ることができるのです。そして、何よりも、この方によって生まれ変わった人々の証がそこにあります。十字架で死んでよみがえった救世主、この方によって私たちは生まれ変わることができる。こんなすばらしい救いを神は私たちに与えてくださるのです。

### **救い：かつての私たち**

皆さん、私たちは先ほども言ったように、自分の努力によって救いを得ることなど100%不可能です。なぜなら、私たちは罪の奴隷であり悪魔の奴隷だからです。思い出してください。エペソ2：2にパウロはそのことを明確に示しています。かつての私たちはどのような存在だったのか？「そのころは、それらの罪の中にあつてこの世の流れに従い、空中の權威を持つ支配者として今も不従順の子らの中に働いている霊に従って、歩んでいました。」、これが信仰をもつ前の私たちの姿だと言うのです。

#### **1. 世的に生きる者**

かつての私たちはこの世の流れに従って生きていたのです。ここで使われている「この世」とは一般的な世を意味しています。ギリシャ語なら「コスモス」ということばです。新約聖書を見ると、使徒の働き17：24を除いてこの「コスモス」ということばは神に対して用いられてはいません。ですから、「この世」は神と関連したすばらしい世を指しているのではありません。その反対の意味です。

Iコリント3章の中でも、世の知恵に関してパウロはこのようなことを言っています。18-19節「だれも自分を欺いてはいけません。もしあなたがたの中で、自分は今の世の知者だと思ふ者がいたら、知者になるためには愚かになりなさい。：19 なぜなら、この世の知恵は、神の御前では愚かだからです。こう書いてあります。「神は、知者どもを彼らの悪賢さの中で捕える。」と、パウロは何を言っているのでしょうか？「この世の知恵」と「神の知恵」とは違うと言っているのです。なぜなら、この世の知恵とはこの世を支配しているものに属しているからです。だから、この世でどれ程知恵を得たとしても、その知恵によって神を知ることは無いと言うのです。なぜなら、この世の知恵を支配しているものは、あなたを神から遠ざけようとするからです。聖書を見たときに、この世を支配しているのはサタンであると言っています。この世の知恵の基にあるのはサタンなのです。

パウロはこの救いに与る前の私たちは、この世の流れに従っていた、つまり、言い方を変えるなら、この世の考え方、この世の言い習わし、この世の習慣、この世の価値感をもって私たちは生きて来たと言うのです。そして、パウロは言います。「信仰者であるあなたは、真のクリスチャンであるあなたはその中から救い出された。」と、我々は新しい価値感をもって生きる者へと変わったのです。世の中の知恵でなくて、神の知恵をいただきながら生きる者へと生まれ変わったのです。世の中の考え、慣わしなど、世の中の知恵ある人のことばに従うのではなくて、神の知恵によって、神のみことばに従って生きる者へと私たちは生まれ変わったのです。それが救いだと言います。全く新しい価値感がそこに存在するのです。

#### **2. サタンに従う者**

パウロはエペソ2：2で「私たちはかつてはサタンに従う者だった」と言っています。「空中の權威を持つ支配者」とはだれのことでしょうか？サタンのことです。ですから、パウロは私たちがイエスを信じる前は、この世の支配者、すなわち、サタンに従って歩んでいたと教えるのです。そして、この世の神は、本当の神と同じように、人々に従順を要求するのです。私たちは罪を犯し続けて来た、それはまさに、その当時の主人であったサタンを喜ばせ続けて来たのです。神のみことばなど全く無視して、自分の考えや思い通りに生きようとするというのは、サタンに対しての従順な生き方です。サタンが望んでいるのはそういうことです。神のみことばなど無視して、好きなように生きたい、楽しければそれで良い、これが私たちだったのです。

この世の流れに従い、この世の人々と同じように生き、神に全く従おうともせず、神を愛そうともせず、神に背を向けてこの世の中で生きていました。この世の人々が「あなたは成功者だ」と言ってくれることを望みながら、そのことを夢として描きながら生きて来ました。そして、私たちはどんなに努力しても自分の心を変えることができなかつた。どんなに間違つたことを止めようとしても無理だつた。何とか自分を変えようとしてもだめだつた、悪い心を持たないようにと一生懸命自制心を働かせても、私たちはこれに対して全くどうすることもできなかつた。私たちは私たちの主人であるサタンを喜ばせることしかできなかつた。この方が喜ぶ罪を犯し続けることしかできなかつたのです。ヨハネ8：47

に「神から出た者は、神のことばに聞き従います。ですから、あなたがたが聞き従わないのは、あなたがたが神から出た者でないからです。」とある通りです。8：44aには「あなたがたは、あなたがたの父である悪魔から出た者であって、あなたがたの父の欲望を成し遂げたいと願っているのです。」とあります。

そんな私たちに神は働いてくださったのです。私たちにはできなくても救世主によってできるのです。私たちは自分を生まれ変わらせることはできなくても、この救世主によって生まれ変わることができるのです。罪から完全に離れて聖い人間になることは私たちにはできなくても、救世主によってそれは可能なのです。父なる神はこの偉大で希望の救い主の誕生を、あのエデンの園において、サタンに対して高々と勝利宣言をなさいました。もうすでに見て来たように、あの罪を犯したアダムとエバに対して神が何を約束されたのか？救い主を送るという約束です。人間にできないことを神がなさろうとされたのです。そして、勝ち誇っていたサタンに対して神がなさったことは、「わたしは人類のために救い主を送る。この救い主が、サタンの奴隷となっている人をその束縛から解放する。生まれ変わらせる。」ということです。こうして考えて見ると、神はすごい方だと思いませんか？罪を犯して神の祝福を失ったあのアダムとエバ、彼らをこのエデンから追放する前に神が約束されたことは「救い主を送る」ことでした。

その救い主が「閉ざされたわたしとあなたたちとの関係を回復する。」と言われるのです。生まれ変わることができるのです。罪を赦していただくことができるのです。そして、「サタンよ。勝ち誇っているかと思っているかもしれない。勝利したかと思っているかもしれない。しかし、わたしはおまえの力を踏み砕く。わたしは救い主を送る。」と。そして、感謝なことに、約二千年前にこの救世主が来てくれたのです。そして、その救世主はこの世に来ただけではなく、あなたの罪を負って十字架で死んでくださり、そして、よみがえることによって、あなたの罪の赦しを備えてくださったのです。

救世主は来てくださった。私たち信仰者がしっかりと覚えなければいけないことは、何と偉大な救い主なのだろう！ということです。

フィリップ・プリスという1838－1876年に生きた人物ですが、彼はたくさんの讚美歌を書き、また、作曲しました。私たちがよく知っているのは「主よ、いのちを与えませり」（讚美歌332番）や「静けき川の岸辺を」という曲を作曲した人物です。若くして事故で天に召されました。この人がこのような曲を書きました。

「悲しみの人 何という名前 神の御子として 墮落した罪人たちを  
改心させるために来られた ハレルヤ 何という救い主だろう。  
恥と非礼な嘲りを耐えられ 私の身代わりに彼は死刑判決を受けられた  
わたしの赦しを 彼の血潮で保障された ハレルヤ 何という救い主だろう。  
有罪で卑劣で無力な私たち 汚れのない神の小羊は彼だった  
完全な贖いなどありうるだろうか ハレルヤ何という救い主だろう。  
彼は死ぬために上げられた 「すべてが完了した」が彼の叫びだった  
今、天にあって高く上げられた ハレルヤ 何という救い主だろう。  
私たちの栄光の王が来られる 彼の贖われたすべてものを  
天の住まいへと 連れて行かれる  
そのとき、新たに彼の賛美を我々は歌う ハレルヤ 何という救い主だ。」

私たちの罪はすべて解決したのです。イエス・キリストによって救われた者たちは、すべての罪がこの方によって解決し、我々は新しく生まれ変わり、そして、私たちはこの地上にあって天にあって、この方を誉め称え続けていくのです。そのような祝福に私たちは与ったのです。なぜなら、救い主が来てくださったからです。そして、この救い主はこの救いを私たちにくださったのです。

ハレルヤ!! 何という救い主!! この方を感謝しながら、イエス・キリストの降誕を記念するこの日を過ごしてください。そして、明日も明後日も、主がこの地上においてくださる間、そのことを感謝し、この偉大な神、救い主を心から誇り、誉め称える者として歩み続けてください。

偉大な、偉大な救世主、この世に来てくださった。あなたや私を救うために！！

#### 《考えましょう》

1. イエスが神であり、救世主であることの証拠としてヨハネが挙げたことを記してください。
2. どうして主イエスだけが、我々を罪から救うことができるのでしょうか？
3. 救われる前の私たちの特徴を挙げてください。
4. あなたが主なる神に感謝していることを書いてください。